

いわき市の英語教育の現状



令和6年11月21日
教育委員会事務局学校教育課

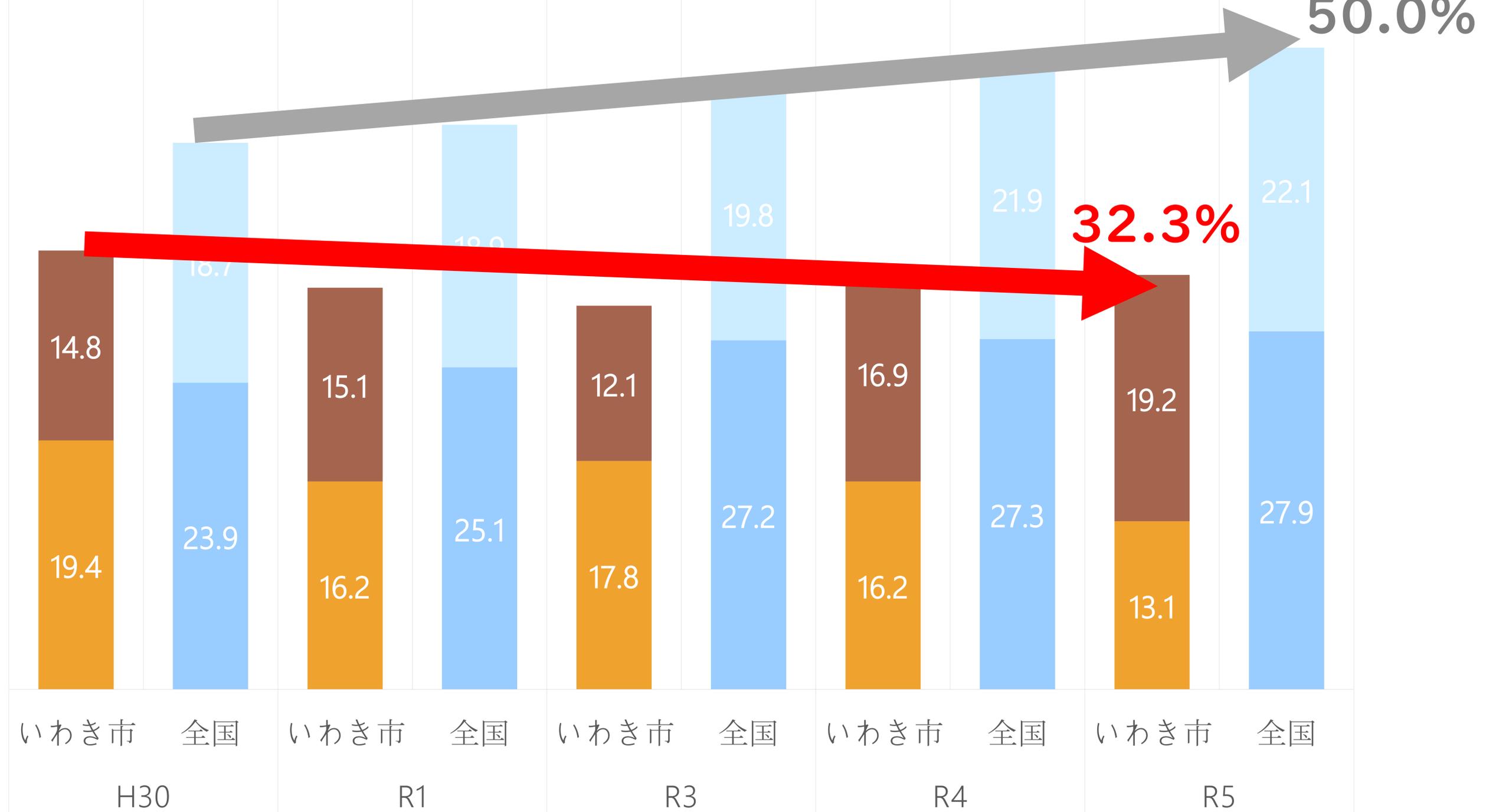


いわき市の中学生の英語力



英語教育状況実施調査（文部科学省）における英語力の推移

CEFR A1レベル相当以上の英語力をもつ中学3年生の割合



CEFR A1相当以上の英語力を有していると思われる

CEFR A1相当以上を取得している

■ いわき市

■ いわき市

■ 全国平均

■ 全国平均

全国学力・学習状況調査における平均正答率（中学生）

国語	H31	R3	R4	R5	R6
いわき市	72	65	69	68	58
全国	72.8	64.6	69.0	69.8	58.1
差	-0.8	+0.4	0.0	-1.8	-0.1

数学	H31	R3	R4	R5	R6
いわき市	56	55	46	45	49
全国	59.8	57.2	51.4	51.0	52.5
差	-3.8	-2.2	-5.4	-6.0	-3.5

英語	H31	R3	R4	R5	R6
いわき市	52	-	-	40	-
全国	56.0	-	-	45.6	-
差	-4.0	-	-	-5.6	-

いわき市の英語教育



- ALT (JETプログラム) 配置の工夫
- 英語教育サポーター派遣
- イングリッシュ・イマージョン・キャンプ
- 英語4技能検定GTECの実施
- 英語弁論大会



●ALT (JETプログラム) 配置の工夫

同中学校区に同ALTを配置



- 小中連携/小小連携の強化
- ・教材の共有
 - ・指導法の共有
 - ・英語学習への安心感



●英語教育サポーター派遣

英語が堪能な地域人材（NPO法人共創のまち）を
小学校に派遣



活動内容

- ・小学校における外国語活動、外国語科の授業の補助
- ・外国語教育教材作成の補助
- ・小学校教員等に対する現職研修への補助

●イングリッシュ・イマージョン・キャンプ(小学生・中学生)



令和6年度テーマ(中学生)
英語を通してALTの出身国の文化を学ぶ

●英語4技能検定GTECの実施

受検者用スコアレポート

〈Junior 1-2〉

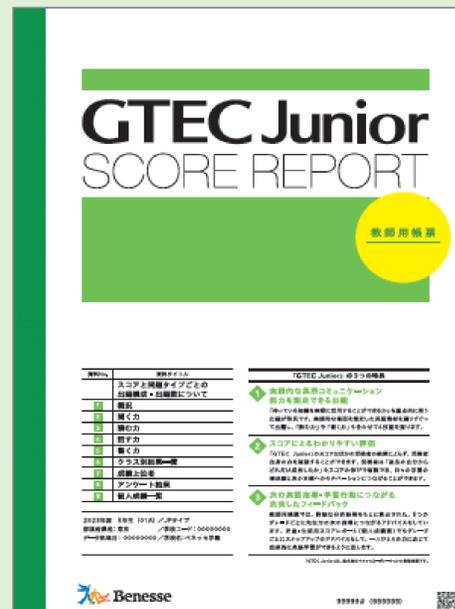


〈Junior Plus〉



教師用帳票

〈表面〉



〈中面〉



研究指定校 (5校)

- ・小6・中2
- ・英語運用能力や課題を調査、分析
- ・指導内容や指導方法の改善
- ・小小連携や小中連携の強化

教育委員会

- ・学校訪問や研修時に活用

●英語弁論大会(中学校)



参加校	34校
参加生徒数	46名(各校代表)

いわき市の学力向上の取り組み



●学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）

●いわきの学びづくり

- ・授業づくり支援
- ・実践事例発掘

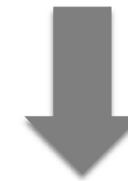
●生成AIパイロット校の実践



●学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）



複合的なデータ分析による
学校・学級の強みや課題の把握



目標を設定し、授業改善へつなげる

特徴 1

「全国学調」、「ふくしま学調」、「市の質問調査」の3つの調査結果及びそれらの相関等のデータが1枚にまとめられている。

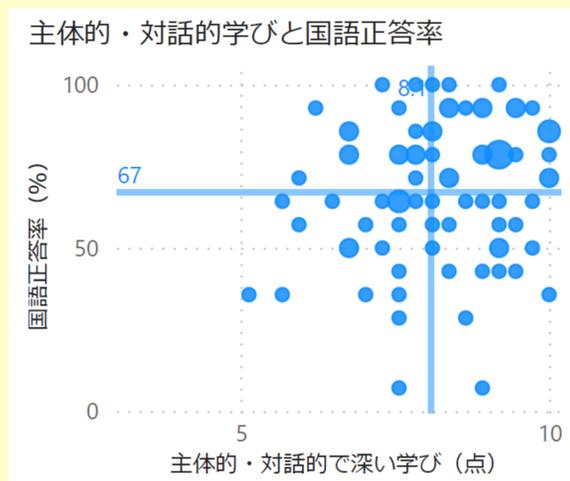
⇒多角的な分析結果が得られ、各学校の強みや課題の把握が可能。

⇒進級に伴う経年変化の分析も可能。

全国学調 市の質問調査



県の学力調査

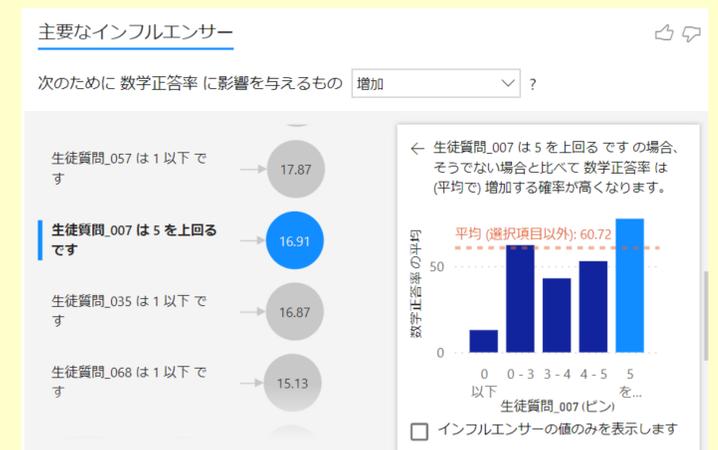


特徴 2

様々な要素間の関係性を視覚化する「インフルエンサー分析」機能を搭載（例えば、ある教科の正答率に影響を与えている可能性が高い項目を上位から表示可能）。

⇒平均正答率だけでは分からない児童生徒の心理的特徴や学習方略の関係性が把握可能であるため、学習指導への効果的な活用が期待できる。

(例) 数学の正答率と生徒質問項目との関係性の高さをグラフで表示



【出典】 「中教審教育課程部会（令和6年10月25日）」（文部科学省）より

●いわきの学びづくり（授業づくり支援）

学校からの要請に応じた協働的な授業づくりを支援



●いわきの学びづくり（実践事例発掘）

参考事例や先進的な取り組みを発掘し、
他校へ展開するためのプロセスを構築



●生成AIパイロット校の実践（内郷第一中学校）

リーディングDXスクール指定校・AIパイロット【100箇所程度】

実施内容① リーディングDX指定校

- ・GIGA端末とクラウド環境の徹底活用による教育活動の高度化
- ・指定校が実施する様々な実践例から効果的な指導技術を創出・展開（都道府県・指定都市に1箇所以上設置）
- ・1人1台端末の活用状況の把握・分析
- ・選定方法：公募（とりまとめ団体が公募を実施）

実施内容② AIパイロット校

- ・生成AIを活用した授業実践研究 ※ガイドラインを遵守
- ※ 効果的な取組実践を創出する観点から、学術的知見を有する研究者や優れた実践家等から伴走支援を受けること（学校DX戦略アドバイザーの支援含む）
- ・生成AIを用いた取組の成果に関し、年度末に実施する成果報告会で発表（予定）
- ・選定方法：公募（とりまとめ団体が公募を実施）

リーディングDX指定校が実施する具体的な内容

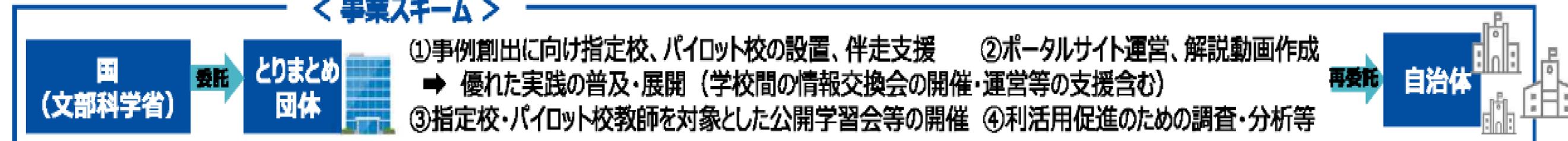
GIGA端末・クラウド環境を活用し、

- ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ② 動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業
- ③ 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- ④ 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修
- ⑤ 実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及

※ 学校が丸ごとになって教育課程全体で実践を行う

※ 基本的に、①～⑤はすべて実施

< 事業スキーム >



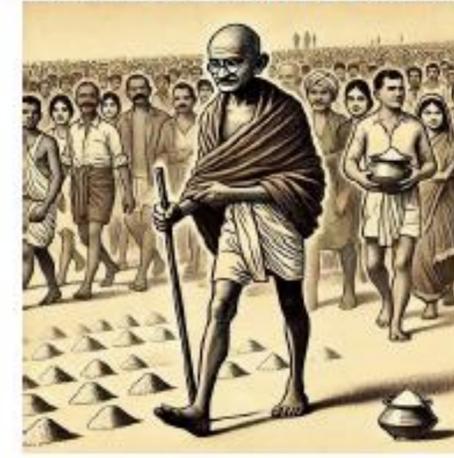
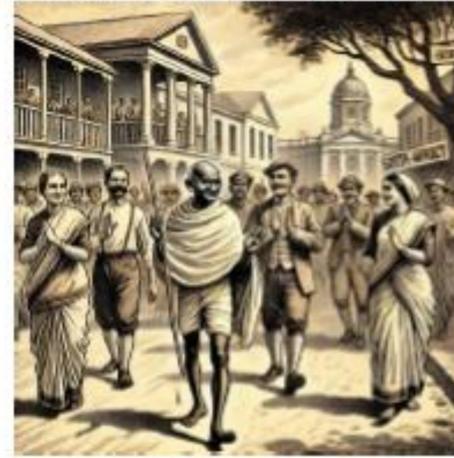
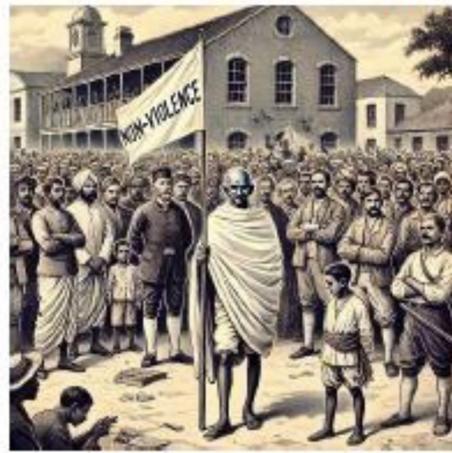
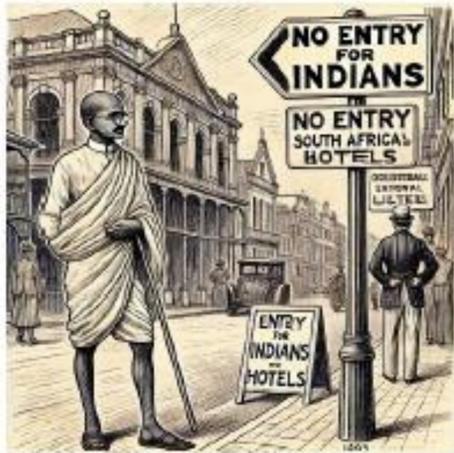
【出典】リーディングDXスクール資料（文部科学省）より

生成AIの校務における活用

- 会議の要項作成
- 掲示物に使用する背景やイラスト作成
- 挨拶文などの添削
- テスト問題のたたき台作成
- ワークシート作成

Unit5 Read and Think 2

1. 次のイラストは、Read and Think の本文の内容を順番に表したものです。それぞれのイラストが表している内容を説明した文を下の A~E から選びなさい。



① ()

② ()

③ ()

④ ()

⑤ ()

A : Gandhi moved to South Africa to work as a lawyer.

B : Gandhi started the Salt March in 1930 with 78 followers.

C : Indians in South Africa protested against a new unfair law in 1906.

D : India got independence in 1947.

E : The law in South Africa was removed in 1914

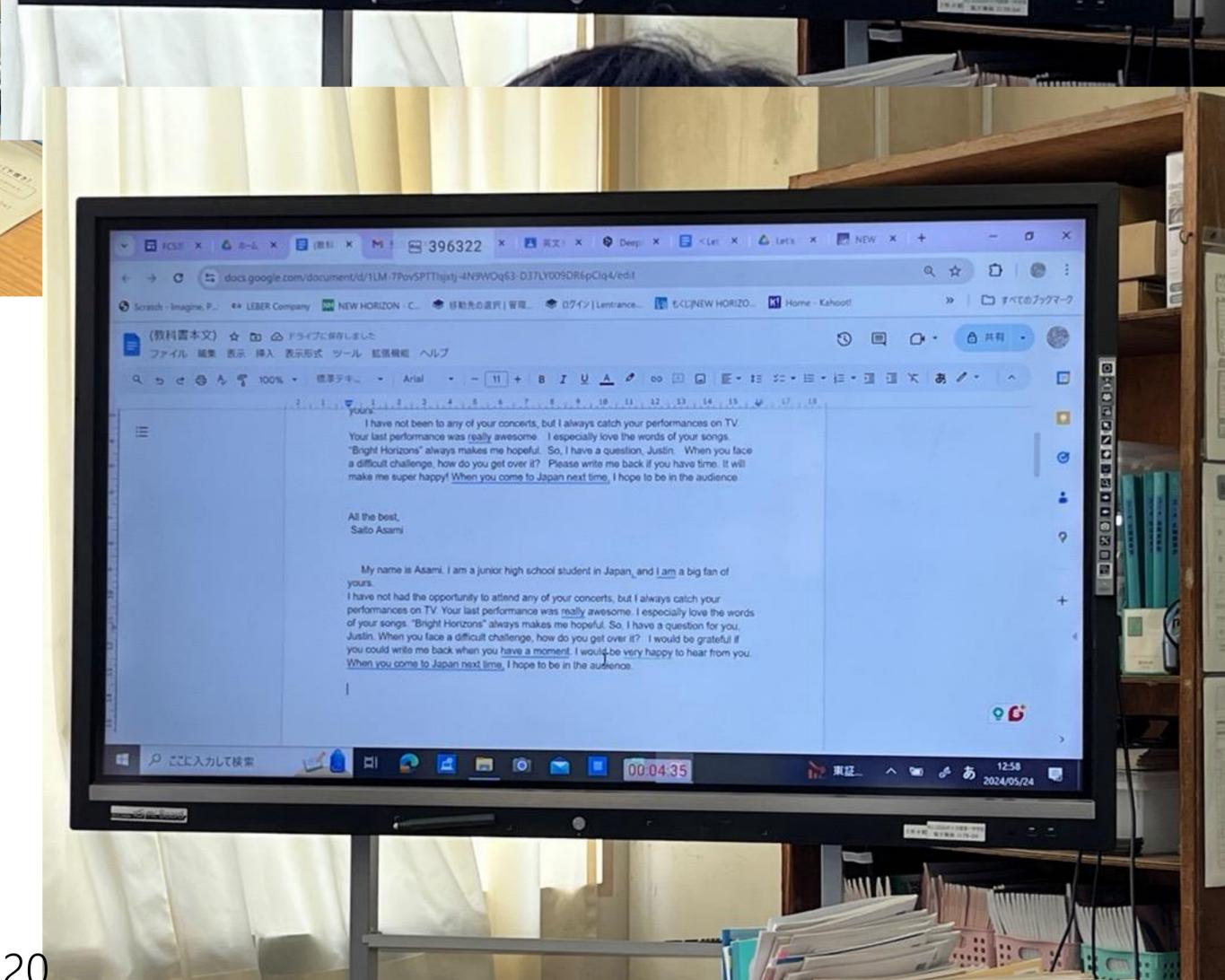
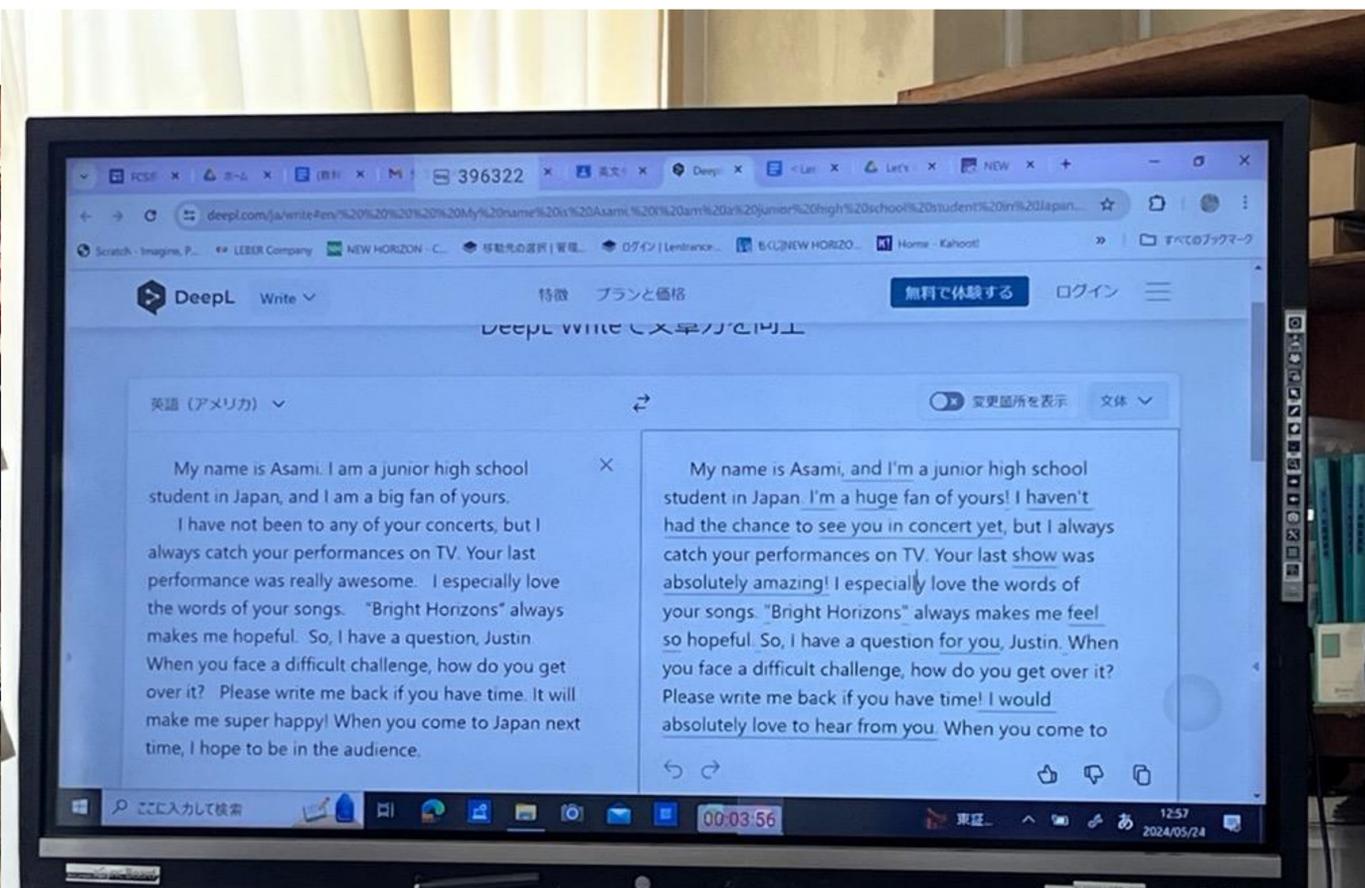
2. () に適切な日本語を入れて、ガンディーに関する年表を完成しましょう。

1869年	西インドのポルバンダルに生まれる。
1888年	弁護士になるためにイギリスに留学する。
1893年	() に渡る。() を受ける。
1906年	不公平な() に反対して、() の運動を行う。
1915年	インドに帰国する。
1930年	塩にかけられた() に反対して、「塩の行進」を行う。
1947年	インドが() 。
1948年	暗殺される。



生成AIの授業（英語）における活用

- 英作文の添削
- イラストの生成
- 練習問題の生成とフィードバック



自分が書いた英文と
DeepL Writeが生成した英文を比較し、
より伝わりやすい英文になるよう
推敲する生徒たち



Canvaを使ってメッセージカードのデザインを生成